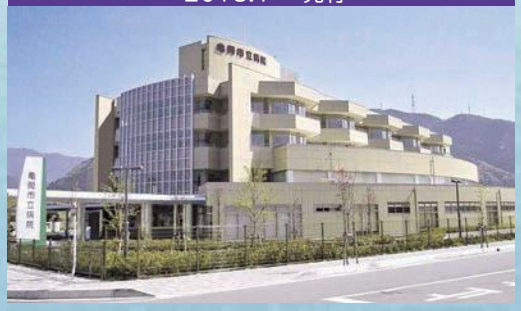
Vol. 26
2018.7　発行



桔梗 ききょう

亀岡市立病院広報誌

発行責任者　亀岡市立病院広報委員会
〒621-8585
京都府亀岡市篠町篠野田１－１
ＴＥＬ　０７７１－２５－７３１３
ＦＡＸ　０７７１－２５－７３１２
http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/

病院理念

■急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。

■患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。

■地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。

■公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ …… 1
新任医師紹介
亀岡市立病院新改革プランの進捗状況について …… 2
患者支援センターのご紹介 …… 3
地域包括ケア病床のご紹介 …… 4
亀岡市立病院健康講座のお知らせ …… 5
乳癌検診について
糖尿病教室からのお知らせ …… 6
地域連携医のご紹介
編集後記 …… 7
外来担当医表 …… 8

ごあいさつ

今年度から副院長を拝命しました田中宏樹と申します。これまでは外科の中だけを考えていれば良かったのですが、これからは玉井院長をサポートして当院がどのような形でこの地域の医療体制に貢献するべきか？どうすれば持続的にこの地域に医療サービスを提供し続けられるのかを考えていかねばならず、責任の重さに身の引き締まる思いです。

世界に類を見ない超高齢化社会で社会保障の担い手である若者が急激に減少していく日本では、今までのように誰でも健康保険と高額医療費助成制度で安価にどんな医療でも受けられるということはできません。税収が伸びない中ではどうしても必要なものを選択し、それ以外は捨てて我慢する事が必要となります。当院では規模が小さいためにできない事も多々ある中で、どのような役割が求められているかを考えてゆかねばなりません。市民の皆様の意見をお聞きし、役割が重なって非効率にならないように近隣の他の医療機関との連携の中で決めていくことが重要ですが、まずは寝たきりになってコミュニティに戻れない方を減らすためのリハビリテーションの充実は今日の日本の最重要課題と思われますので充実して参ります。また患者数が多く治療の難易度の高くない大腸癌や乳癌に対する最新のエビデンスに基づいた検診や治療などは当院でもできうることとして最新最良のサービスを提供できるように取り組んでいく所存です。病院も鉄道などと同様使われる頻度が減っていくと存続が困難となります。市民にとって必要な存在であり続けていくためにも是非とも当院に対してご意見を頂戴し、育てていただければ幸いです。

亀岡市立病院　副院長　田中　宏樹

Kameoka municipal hospital

新任医師紹介

内　科

①名　　前 …… 北川　功幸（きたがわ　のりゆき）
②年　　齢 …… 37 歳
③出　　身 …… 大阪府島本町
④得意とする診療内容 …… 糖尿病内科
⑤趣味など …… テニス（ソフトテニス）、
サッカー観戦、スキー、温泉旅行

⑥皆さまへのメッセージ ……

このたび、2018 年 4 月より内科（糖尿病内科）医員に着任しました、北川功幸です。3 月までは、大阪府済生会吹田病院で糖尿病専門医として勤務しておりました。

亀岡には、学生時代の部活（ソフトテニス部）での合宿や試合などで、湯の花温泉をよく訪れていました。テニスの汗を温泉で流すのが気持ち良かったです。亀岡を中心とした中丹地域には、まだまだ糖尿病治療に重点を置いた施設が少ないため、亀岡市立病院の果たしていくべき役割が大きいかと存じます。糖尿病治療に重要なチーム医療のさらなる充実を図り、地域の皆様に充実した糖尿病療養環境を提供していけるように頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

亀岡市立病院新改革プランの進捗状況

亀岡市立病院新改革プランは、総務省のガイドライン、厚労省の地域医療ビジョンをもとに当院で策定した 4 ヶ年計画のマスタープラン（基本計画）であり、アクションプランはそれを実現する為の年度毎の短期計画です。新改革プランでは、亀岡市立病院のあり方や方向性、将来構想を見据えた計画とし、アクションプランでは、新改革プランをもとに各診療科、部署で設定した目標としています。

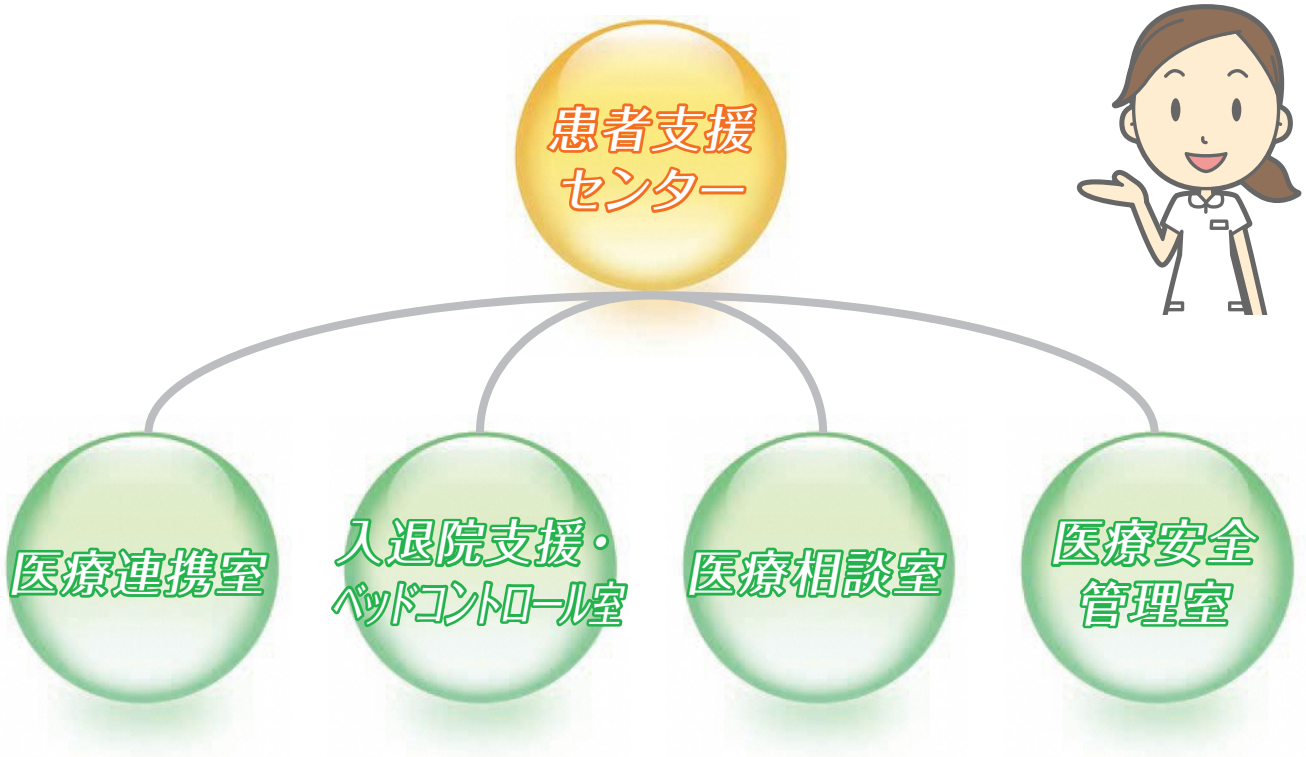
昨年 12 月に院内の全職員を対象に上半期の実績報告会を開き、今年 5 月には平成 29 年度の締め括りとして年度実績報告会を開催しました。1 年目の状況は全体的に目標を上回る成果が得られ、多数の参加者がいる中、玉井病院長からは「この実績発表会は他部署の取り組みや進捗度合を知る貴重な機会であり、各部署が作成したアクションプランの責任を果たす場にもなっている。今後も医療情勢や病院を取り巻く環境は常に変わっていく事から、将来を見据えた目標設定をして取り組んでいきましょう。」と講評しました。今期はプラン 2 年目を向えることから、各アクションプランに対して担当責任者と目標の再検討や取り組みの見直しも含め協議しながら目標達成に向けて進めてまいります。

地域連携室 から 患者支援センター に 名称変更しました！

当院では今年４月より患者支援センターに名称を変更しました。これまで当院には地域連携室、患者相談窓口があり、互いに連携しながら、さまざまな相談に対応してまいりましたが、入退院支援の業務が増えている中、種々の業務に円滑な対応が可能となるように「患者支援センター」として再編成を行いました。

患者様およびそのご家族に対し、外来診療から入院、退院までの総合的な支援や、患者様の療養生活や社会生活に関わる医療、介護、福祉などの相談をお受けします。

そして地域の医療機関の先生方や医療機関、施設、事業所の方々からのご相談やご依頼などもお受けします。



医療連携室では外部医療機関との連携を円滑に遂行し紹介患者様をお受けします。入退院支援・ベッドコントロール室では入院から退院まで患者様が安心、納得し、住み慣れた地域で療養生活が継続できるように支援、またリハビリテーションなど回復期治療が必要な患者様には転院の支援を行っています。医療相談室では、介護保険・福祉サービス等の福祉相談や退院後についての相談、かかりつけ医に関する相談を行い、医療安全管理室では医療安全や感染対策に関する相談を受けさせていただきます。

スタッフは患者支援室長（医師）のもと、看護師４名、医療ソーシャルワーカー２名（非常勤１名）、事務職員２名（非常勤１名）の計８名を配置し、当院を利用される患者様に対するサービスの向上に努めてまいりたいと考えております。

皆様の気持ちに寄り添いながら、ご相談をお受けして支援をさせていただきます。お気軽にご利用ください。

亀岡市立病院　患者支援センター

地域包括ケア病床のご紹介

＊ 地域包括ケア病床とは ＊

「地域包括ケア病床」とは、厚生労働省が推進する「地域包括ケアシステム」の一環として、医療・介護等のあり方を「病院単位ではなく地域単位で包括的に」支える方策の一つとして平成２６年に新設された病床群で、地域の中で病院と在宅や施設をスムーズに繋ぐ役割が期待されています。

具体的には、急性期治療後すぐには自宅に帰れない、施設入所出来ない患者様の受入れ（ポストアキュート機能）と緊急的な急性期治療を必要としない在宅や施設からの患者様の受入れ（サブアキュート機能）の2つの機能に大別され、手術などの急性期治療が終了した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある方や、病状は改善したがもう少し加療が必要な方などが在宅復帰に向けての『準備を整える』ための病床です。

＊ 対象となる患者様 ＊

①急性期治療により状態は改善したが、もう少し経過観察が必要な方。
②急性期治療により症状が安定し、在宅復帰に向けてリハビリテーションが必要な方。
③自宅や介護施設での生活に準備が必要な方。
④在宅や施設入所中の方で状態が悪化したときやレスパイト入院（介護者に不都合等が生じた時に、被介護者が緊急避難的に入院すること）が必要な時。

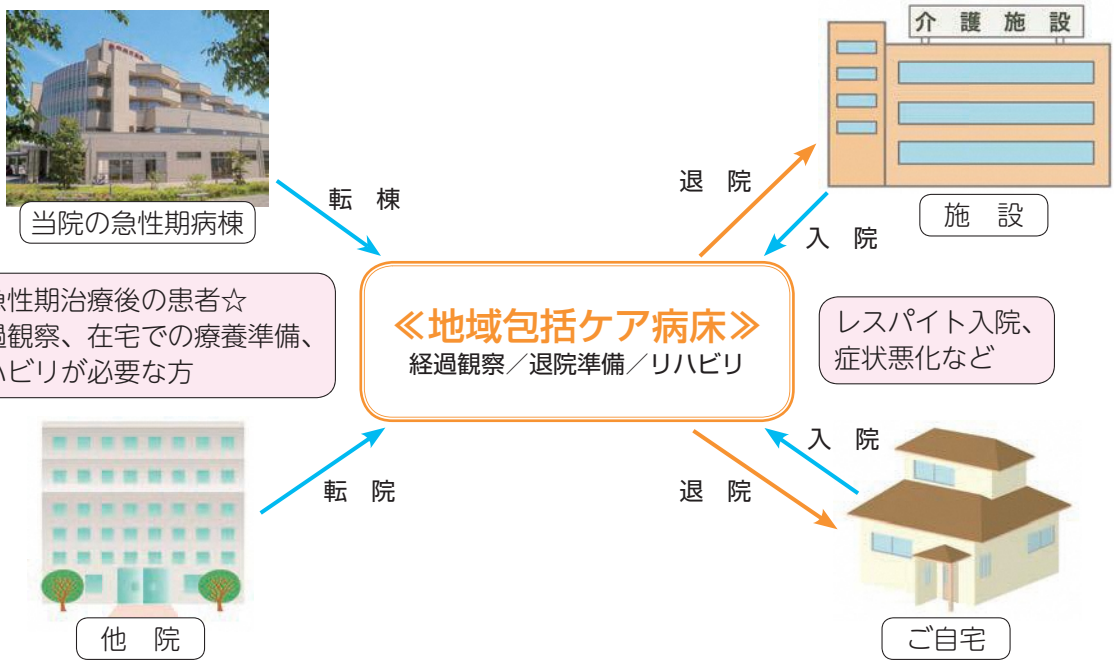
＊ 当院の地域包括ケア病床について ＊

当院では、平成２８年3月～地域包括ケア病床を１０床開設し、平成２９年４月～２０床に増床しております。現在は、整形外科の手術後のリハビリテーション、内科、外科の急性期治療が終わり、在宅復帰に向けて準備が必要な患者様に入院していただいています。入院中は専従のリハビリスタッフが、患者様の安定した日常生活動作の向上を目指し積極的なリハビリを行っています。また、退院に向けて主治医、看護師、リハビリスタッフ、退院支援担当者など多職種が協働し、患者様、ご家族の方に安心して在宅復帰ができるようサポートさせていただいています。

４月からは患者支援センターを設置して、患者様、ご家族の方の安全、安心を考え入院から退院まで、病院内スタッフとの連携はもちろんのこと、地域の他医療機関、福祉施設等との連携も密にとりながら入退院支援に取り組んでおります。

今後は、他病院での急性期治療が終了した患者様の転院、かかりつけ医からのご紹介による入院の受入れを増やしていければと思いますので、地域包括ケア病床の利用の希望がある場合は、「かかりつけ医」もしくは「ご自身の主治医」にご相談ください。

今後も「地域包括ケアシステム」の推進に貢献できるよう尽力していきたいと思います。



亀岡市立病院健康講座のお知らせ

当院では地域に根ざした親しみやすい病院を目指し、市民の皆さまへの健康情報の提供および病院の広報活動の一環として亀岡市立病院健康講座を行っています。地域の公民館などに出向かせていただき、皆さまの関心を持っていただけるよう様々な内容を予定しています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

6月の様子

平成30年度　亀岡市立病院健康講座（予定）

日程	テーマ ／ 開催場所	タイトル	担当
6月28日(木) 14時～15時	動脈硬化	生活習慣から見えるあなたの血管	臨床検査技師
	亀岡市立病院ウエルネスホール	血管にやさしい食事	管理栄養士
7月21日(土) 10時～11時30分	骨粗鬆症	調べてみよう骨密度	診療放射線技師
		骨粗鬆症のお薬	薬剤師
	南つつじヶ丘	骨を強くする運動はあるのか？	理学療法士
8月	いざという時に困らないために	救命処置・応急処置を学ぼう（仮）	看護師
	亀岡市立病院ウエルネスホール	災害と薬　お薬の備えは大丈夫ですか？（仮）	薬剤師
10月	膝痛予防と対策 亀岡市立病院ウエルネスホール	膝痛予防と対策	理学療法士
11月	腰痛予防と対策	腰痛予防と対策	理学療法士
	大井町		
12月	介護の豆知識　飲み込む機能の大切さ	介護の助けとなるマメ知識（仮）	看護師
	亀岡市立病院ウエルネスホール	飲み込み機能の大切さ（仮）	看護師
1月	大腸がんになった時のために	未定	消化器内科医師
		未定	外科医師
	千代川町	未定	看護師
2月	認知症	楽しく学ぼう！　認知症のいろは	看護師
	馬路町		作業療法士

亀岡市乳癌検診開始のお知らせと乳腺外来変更のお知らせ

欧米では乳癌死亡率は徐々に減少に転じており、その原因として最も大きな要素は乳癌検診の普及による早期発見と言われております。欧米では検診受診率は 70% を超えていますが、日本では約 27% ほどです。亀岡市市民検診の受診率はまだ約 24% ほどです。今年も亀岡市乳癌検診が 6 月から始まりました。(12 月末日まで)

当院は精度管理中央機構認定施設であり、最も多くの亀岡市民検診受診者を受け入れている施設でもあります。まだ空き枠がございますので希望される方は病院まで電話でお申し込みください。なお今年から視触診が廃止となり、マンモグラフィ単独検診となります。視触診が全く無効という事では無いのですが、巡回検診などで視触診とマンモグラフィが別々に行われると偽陽性（癌でないのに精査必要と判断される割合）が増えることが問題視されたためです。しかしマンモグラフィですべての癌が見つかるわけではありません。そのため自分でしこりを触ったり痛みがあるなどの症状がある方は検診では無く、通常の乳腺外来を受診するようにお勧めすることになっております。

当院では乳腺専門外来を月、火、水曜日に行っております。今年の 4 月から火曜日の担当を櫻町綾奈医師が担当しておりますのでよろしくお願い申し上げます。原則として初診日にほとんどの検査を即日行い、検査説明も行う事にしている都合上、予約制の外来とさせていただいております。電話で予約できます。

もしどうしても上記曜日は都合が悪い方は個別に電話でご相談いただけましたら対応させていただきます。お気軽にご相談ください。

副院長　田中　宏樹

糖尿病教室からのお知らせ

皆様、血糖値上昇予防に食後の運動をしていますか？食後は誰でも血糖値が上がります。食器洗いも、歯磨きも運動の一つです。食後の家事や清潔行動を積極的に行いましょう。

さて、そろそろ熱中症対策でスポーツドリンクを飲む機会が増える時期になってきました。スポーツドリンクの砂糖の含有量はどのくらいかご存知ですか？当院では去年１０数名の方がスポーツドリンクを定期的に飲用したことで糖尿病が悪化し入院されています。この機会にぜひ、スポーツドリンクの飲みすぎには注意願います。

スポーツドリンクの５００mあたりの砂糖含有量

A社:31g

B社:23.5g

C社:12.5g

糖尿病教室のご案内

	開催日・内容・担当者
７月	２４日(火)　ご存知ですか？検査のこと　：　検査技師
８月	２１日(火)　糖尿病に薬は必要？　：　薬剤師
９月	１１日(火)　自分の足をみてみよう　：　看護師
１０月	１６日(火)　体脂肪と筋肉と糖尿病　：　医師
１１月	２０日(火)　体を動かそう！消費カロリーどのくらい？　：　看護師
１２月	１８日(火)　気をつけよう、冬の食事　：　管理栄養士

7月、10月は検査体験もあります。

この春、糖尿病療養指導士が２名増え、６名になりました。

また５月２４～２６日にかけて、東京で行われた糖尿病学会に、医師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、看護師らで参加や発表をしました。学会での学びや気付きを患者様に還元できたらいいなと考えていますので、ぜひ糖尿病教室にご参加下さい。お待ちしています。

地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者様中心の医療を展開しています。
そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

八木診療所

所　　長：八木　司

住　　所：〒621-0821
亀岡市篠町柏原町頭１８番地

Ｔ　Ｅ　Ｌ：0771-24-0123

標榜科目：内科、耳鼻咽喉科、皮膚科

診療時間：午前 9:00～12:00
（月曜日から日曜日まで）
午後 16:30～19:30
（月曜日から水曜日と金曜日）
14:00～17:00（土曜日）
休診は、第2と第4の土曜日、および祝日
（振替休日含む）

診療所より一言

昨年４月に吉村医院を引き継ぎ、同じ内容の外来診療と新たに在宅医療を行っております。

私事ですが、首都圏で様々な医療機関のお世話になり、救急から在宅医療まで一般内科の視点で診療を続けてきました。研修医の頃より下町の患者さんに接する機会が多く開業直前まで江戸川区の小さな病院で診療を行っておりまして、このたびのご縁により、この地で地域医療を実践していくことになりました。

開業から１年が過ぎたところです。概ね安定した病状の方の定期的な受診が多い中、亀岡市立病院へ転医をお願いすることがありますが、その際、地域連携室に要点をお伝えするだけで、その後の対応が簡素化されて助かっております。また、検査が十分出来ずに臨床的な判断だけでお願いする場合が多いのですが、予想外の診断であったり予想以上に重症な場合があったなどのことが、後日、詳細な診療情報提供書により判明し、学ぶことが沢山あります。これまでの経験を活かし、かつ当地での医療資源などを把握しながら、医療水準の向上に寄与できるよう更に研鑽を続けていく所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

７月に入り、暑さも本格化してきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

我が家にはキャバリアという犬のヴェル君がいるのですが、サラサラストレートの毛並みが夏はとっても暑そうです。

さて、このヴェル君。お手もお座りもできないのですが、私の車の音だけはなぜか聞き分けているらしく、家の前の坂を上る音ですでに玄関にむかって待機し、ドアを開けると大喜びで出迎えてくれるのです。

ヴェル君は二代目の犬なのですが、先代犬も同じ犬種でした。無駄吠えをせず、温厚な性格のキャバリアが自分にピッタリの気がしています。

これから暑さが厳しくなりますが、体調管理には気をつけてお過ごしください。

広報委員会　副委員長　和久　隆（主任診療放射線技師）

外来担当医表（平成30年7月現在）

亀岡市立病院
Kameoka municipal hospital

診療科	月	火	水	木	金
消化器内科	上原 有紀子	楳村 敦詩	岡田 頼久	―――	岡田 頼久
循環器内科	金児 奈瑠香	福居 顯介	大内 成浩	福居 顯介	松尾 龍平
一般内科	計良 夏哉（第1・3・5週） 木村 兌弘（第2・4週）	木村 史子 志村 勇司（予約のみ）	松尾 龍平	西山 大地	木村 史子
神経内科	―――	―――	―――	上田 哲大	―――
糖尿病内科（予約）	―――	橋本 善隆	北川 功幸	北川 功幸	濵口 真英
ペースメーカー外来	―――	―――	―――	―――	松尾 龍平（偶数月の第3週）
皮膚科	―――	―――	金丸 麻衣	―――	堤 美穂
泌尿器科	―――	白石 匠	―――	―――	―――
泌尿器科 午後（2時~4時）	―――	―――	―――	温井 雅紀（第2・4週）	―――
外科1診	荒木 康伸	担当医	田中 宏樹	小川 聡一朗	荒木 康伸
外科2診	田中 宏樹（乳腺）	櫻町 綾奈（乳腺）	―――	上田 雄一郎（第1・3・5週） 栢分 秀直（第2・4週）（呼吸器）	―――
外科 午後（予約）	田中 宏樹（乳腺）	―――	田中 宏樹（乳腺）	―――	―――
麻酔科（ペインクリニック）	橋本 朋子	―――	―――	―――	橋本 朋子
眼科	鎌田 さや花	担当医	―――	鎌田 さや花	―――
整形外科1診	久保 恭臣	玉井 和夫（予約）	村上 幸治	久保 恭臣	久保 恭臣
整形外科2診	山﨑 哲朗	山﨑 哲朗	山﨑 哲朗	村上 幸治	村上 幸治
整形外科3診	玉井 和夫	成田 渉	成田 渉	―――	―――
小児科	寺町 紳二	寺町 紳二	寺町 紳二	寺町 紳二	寺町 紳二
小児科 午後（予約）	寺町 紳二（循環器）	寺町 紳二（予防接種）	寺町 紳二（予約外来）	寺町 紳二（循環器・アレルギー）	寺町 紳二（予約外来）

亀岡市立病院は、在宅で療養されている高齢者等を支援する 京都府の在宅療養あんしん病院に登録しています。

JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車（輪）場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田１－１
TEL 0771−25−7313 FAX 0771−25−7312
http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html

「がんばろう日本」～亀岡市は平成28年（2016年）熊本地震被災地の復興を支援します～